

3章. 都市づくりの目標

(1) 将来都市像及び都市づくりの目標

本計画は、これからの小牧市が目指す都市像を都市計画・都市づくりの分野から実現するための施策の大きな方向性を示すものです。そこで、本計画における将来都市像は、本市の最上位計画である小牧市まちづくり推進計画を踏まえるものとします。

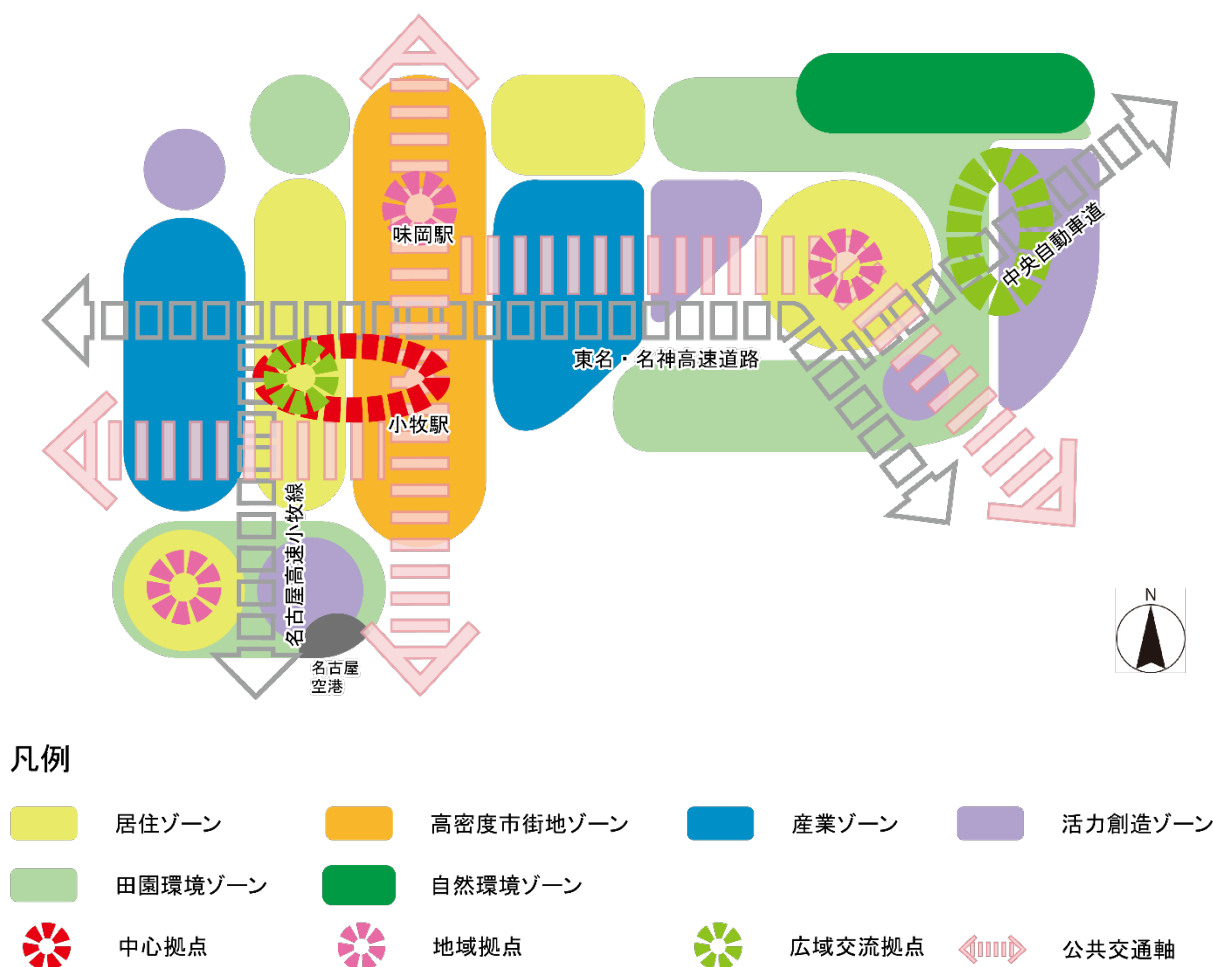
課題の整理	
	○強みを伸ばす ●弱みを克服する
(1)都市構造の視点－コンパクト＋ネットワーク－	
○市街化区域における人口密度の維持、上昇 ○市街地内における人口定着に向け、広く分布する市民の日常生活を支える都市機能の維持・充実 ○鉄道駅やバス停を中心に日常的な生活圏がコンパクトにまとまった都市構造への転換 ●現在の市街化区域を基本とした定住促進、都市的低・未利用地の活用等による居住の受け皿の確保 ●中心拠点での既存ストックの改善や土地・建物の有効・高度利用の促進、多様な交流を生み出す都市機能や生活中心地にふさわしい都市機能等の集積強化による本市の「顔」として賑わいの創出・活性化	
(2)都市活力の視点－産業振興・交流拡大－	
○優れた広域交通体系による利便性を活かした工業・物流機能の集積強化 ○充実した就業の場を背景とする若い世代の転入を今後も維持していくための雇用の場の確保 ○既存の観光資源や広域交通体系へのアクセス利便性等を活かした中心拠点や市の東部での交流人口の拡大 ○移動や産業活動の円滑化、生産力の拡大に向けた都市の骨格を形成する幹線道路網の整備・充実 ●工業系用途地域内都市的低・未利用地の活用や土地利用の適正な誘導等による今後の産業立地の受け皿の確保 ●工業等と住宅の混在がみられる地域での居住環境と操業環境双方の悪化防止 ●中心拠点等における商業業務機能をはじめとする第3次産業の集積強化	
(3)都市生活の視点－コミュニティ活性化・安全安心－	
○日常生活に必要なサービスの維持に向け、広く分布する市民の日常生活を支える都市機能の維持・充実 ○計画的な市街地形成が図られた地区を中心に、整った都市基盤施設等を活用した良好な居住環境の創出 ●高齢化が進み地域活力の低下がみられる集落地や住宅団地等における日常生活に必要な機能や居住の受け皿の確保、交流・地域活動を促進する場の形成等による地域コミュニティの再生・活性化 ●車を運転できない高齢者でも容易に都市機能にアクセスできるような公共交通網の維持・効率化 ●都市の防災性強化、空き家の発生抑制や適切な管理の促進による良好な居住環境の創出 ●土砂災害や浸水等の自然災害の危険性の高い区域における防災・減災対策の実施や開発抑制 ●中心拠点をはじめ市内に広く残る老朽建物のほか、多くの市民が利用する公共施設やインフラ施設等の耐震化	
(4)都市環境の視点－環境負荷低減・自然保全－	
○CO ₂ 排出量の抑制といった環境負荷低減の観点からの利便性の高い公共交通網の維持・効率化 ○身近な公園や緑地を活用した良好な居住環境の創出 ○本市のシンボルとなる小牧山や歴史文化的資源等と調和した美しい都市景観の誘導 ●市街地を取り巻く農地や森林の保全や活用 ●市街化区域内農地の維持・保全や活用等の今後のあり方の明確化	
(5)都市運営の視点－ストック活用・担い手づくり－	
○鉄道駅やバス停を中心に日常的な生活圏がコンパクトにまとまった都市構造への転換（再掲） ○安定した財政力、高い工場等の立地ニーズを背景に、さらなる産業立地の促進による安定的な財政収入の確保 ●今後の財政見通し等を踏まえた効率的で効果的な都市づくり ●将来の厳しい行財政状況を見据え、公共施設の維持管理等に対する住民や民間事業者等の協働化の促進 ●老朽化する公共建築物に対し、施設配置や施設量の適正化、長寿命化による更新コストの削減	



(2) 土地利用構想

5つの都市づくりの目標を実現することで、本市が目指すべき概ね 20 年後の都市の姿（土地利用構想）を明らかにします。

図-土地利用イメージ



●居住ゾーン

利便性の高さを活かして居住の維持・誘導を図るとともに、自動車に過度に頼らなくても安全・安心に暮らせる生活圏が形成された住居系市街地の形成を目指します。

●高密度市街地ゾーン

名鉄小牧線沿線では、日常的な都市機能の維持・充実等により、一層人口等の集積が図られた市街地の形成を目指します。

●産業ゾーン

地域内の未利用地の有効活用を促進し、さらなる工業・物流機能等の集積が図られた工業系市街地の形成を目指します。

●活力創造ゾーン

自然と調和しながら、先端技術や研究開発機能などの工業施設等が立地する産業系市街地の形成を目指します。

●田園環境ゾーン

市街地を取り巻く農地等の保全や活用により、良好な田園環境の形成を目指します。

●自然環境ゾーン

北東部の丘陵地の広域的な緑地等の保全や活用により、良好な自然環境の形成を目指します。

●中心拠点

小牧駅周辺から小牧山・市役所周辺にかけて、まちなか居住や広域的な都市機能が高度に集積した、にぎわいと活気に満ちた本市の顔にふさわしい拠点の形成を目指します。

●地域拠点

味岡駅周辺、桃花台センター地区及び藤島地区において、日常的な都市機能が集積した、地域での暮らしを支える拠点の形成を目指します。

●広域交流拠点

小牧山や市民四季の森周辺では、広域交通体系への恵まれたアクセス利便性や既存の資源を活かし、市内外から多くの人を訪れ多様な交流が育まれる拠点の形成を目指します。

●公共交通軸

中心拠点と地域拠点の連携や都市間移動需要に対応する南北公共交通（鉄道）軸の強化、東西市街地及び拠点間の連携等を強化する東西公共交通（バス）軸の形成を目指します。